

きました。ご多忙中にもかかわらずお手伝いを頂いた皆さま、ほんとうにありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。



3月20日、春彼岸の中日の午後、恒例の水吹き地蔵尊のお祭りが実施されました。おかげさまで、盛況のうちに終了することができました。



水吹き地蔵尊のお祭り



〒915-0823
福井県越前市本町10-2
親縁山 大寶寺
TEL/FAX (0778) 22-1682

晴れ間ものぞくであろうという週間天気予報は見事にはずれ、午後になると小雨が降りま



吹き地蔵であるとの会話がしきりに交わされるなか、あいにくの空模様にもかかわらず、大勢の参詣を頂きありがとうございました。午後一時から水吹き地蔵尊の前で法要が行われ、皆さんに焼香をして頂きました。その後、越前消防署の職員の方から防火についての啓蒙のお話がありました。



午後二時からは一休さんのアニメ、また、桂しん吉さんの落語がありました。しん吉さんの落語は「親子酒」という題で、酔っぱらいの生態を見事に演じ本堂の中は笑い声が絶えませんでした。



'08 大寶寺のしだれ桜ライトアップ

昨年に引き続き大寶寺のしだれ桜のライトアップが、福井新聞の朝刊で紹介されました。今年は4月5日(土)の朝刊に載ったのですが、ちょうど週末にかけて、満開になったこともあり、昨年にも増して大勢の人が見物に訪れました。



'08 4/4 撮影

「きれいー」とか「すごいー」と感嘆の声を上げる人。しばらく、花を見上げて物思いにふける人。また、桜を背景に思い思いのポーズで写真を撮る人など、それぞれに大寶寺のしだれ桜を楽しんでいただきました。

昨年に引き続きインターネットのホームページで開花状況をお知らせしましたが、今年は新しい試みとして、ライブカメラでの中継を実施しました。丹南ケーブルテレビで開花のお知らせがでたり、ブログで取り上げられたりと、大寶寺のしだれ桜は年々知名度が上がっているようです。現在の所、ホームページへのアクセス数はそれほどでもありませんが、これからも継続していくことで、より多くの人々に大寶寺のしだれ桜を楽しんでいただけたらと思います。

今年の開花の様子をさかのぼって、次のサイトでご覧頂けます。 http://shinenzan.com/sakura/sakura_index.html



'08 4/5 撮影

4月5日(土)の夕方から先代住職の元同僚の武生第二中学校の先生方や教え子の人たちが鐘楼の前に設置したテントの中で花見の宴を開きました。3時間ほどの宴でしたが、たまたま花見に訪れた知人や教え子の人たちが次々とテントを表敬に訪れました。まさに、しだれ桜の取り持つ縁という所。



'08 4/5 撮影

トピックス

雪つり・雪囲いはずし

3月9日(日)



各地区の代表15名のお手伝いを頂いて雪吊り外しを行いました。好天に恵まれ仕事ははかどり午前中にはすっきり春を迎える準備ができました。

春の彼岸会法要

3月19日の午後七時に具谷の法林寺にて、20日の午前十一時に大宝寺にて、また23日の午後7時から湯尾の浄土寺にて春の彼岸会法要が営まれました。

粟田部春廻り 4月1日(火)

桜も開花しようという4月1日、午前8時ごろから午後3時半かけて、今立地区のお檀家11軒を任職がお参りしました。

武生仏教会「花まつり」

旧武生市内の各宗派の合同で組織される武生仏教会が4月1日より5日までの午前中鉢鉢をしました。8日午後1時20分より丈生幼稚園の園児が白象を引いて、京町一丁目の妙国寺から、総社通りと善光寺通りを経由して、深草一丁目の龍泉寺まで練り歩きました。

その後、午後2時より、龍泉寺においてお釈迦様の生誕をお祝いする花まつりの行事が執り行われました。



白象を引いて、深草一丁目にある忠霊塔の横を龍泉寺にむかって進む丈生幼稚園の園児たち

境内でお花見 4月10日(木)

恒例のお講さんの花見が、12名の参加で4月10日、午後4時から行われました。あいにくの雨のため花は散りましたが、比較的暖かい天気にも恵まれ、いろいろな話題が花盛りとなり楽しい一時を過ごしました。

また、8日の午前10時から本町の高齢者の親睦の会、「のぞみ会」のお花見が20名余りの参加で実施されました。



山本喜一郎氏墓碑改修募金御礼

大正4年武生にて死去した山本源太夫一座の親方、山本喜一郎氏の墓碑の改修について喜捨をお願い致しましたところ4月26日現在十八万九千円の浄財が集まりました。

墓碑は6月22日の永代施餓鬼会法要2日目にお開眼をする予定です。また、今年も同日午後一時からお神楽の奉納を頂く予定です。お誘い合わせてお参り下さい。

第39回おつぎ信行奉仕

6月10、11日恒例のおつぎ信行奉仕を実施します。別紙にて詳細をご案内しております。ぜひ、ご参加下さい。

濁中蓮華

濁った世間に咲く蓮の花の意

すべてが仏

(聞き手) 阿闍梨さんにとって仏さまとはどういう存在ですか。
(酒井雄哉大阿闍梨)

目に見えないそういうものだろうな。うん、だから、すべてが仏さまにみえるわけや。こつちやお話しているおたくも仏さまのひとりなんだよね。(私は)普通だったらこんなことのできるような人間じゃないんだけどね。わざわざ、訪ねてきて話を聞いてくれる。聞いてくれる仏さまがあるからこそ、しゃべれるんで、聞いてくれなかつたら、ひどいづつなつたつてなんにもならないよ。

1988年2月放送NHKころの時代

酒井雄哉大阿闍梨は心身を死の淵まで追い込むという荒行、千日回峰行を二度にわたって成し遂げた行者である。人々は阿闍梨さんを「生き仏」として敬うのだが、その生き仏が、逆に私たちの方に向かつて、我々こそが仏であると語りかける。

辞典によれば仏とは、「悟りを得た者」、「仏像」、「亡くなった人」を指すとあるが、阿闍梨さんのいう仏の定義はここにはない。「目に見えないものも含めて、存在のすべてが仏であり、そのような仏の働きかけのおかげで自分は生かされている」と阿闍梨さんは説く。

ところで、「すべてが仏」というと、当然、自分もその中に含まれるのだが、このことについては、さておくべきである。阿闍梨さんも自らは「普通だったならこんなことのできるような人間じゃない」とあくまでも

謙虚である。また、一枚起請文に「たとい一代の法をよくよく学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の無智のともがらに同じうして、智者のふるまいをせずしてただ一向に念仏すべし」とあるように、法然上人もおごり高ぶることを厳しくいましめる。

ナマステーとは「あなたを敬い礼拝する」という意味である。インドやネパールではお互いに合掌してナマステーと挨拶する。日本語の敬語にしてもそうだが、仏としてとまではないわいが、相手を尊び敬う心がアジアの文化には組み込まれているように思われる。

阿闍梨さんのように、「すべてが仏」であることを実感することは、凡人には不可能なことであろう。しかし、相手がきつと仏さまの性質を持ち、何らかのおかげをその人から受けているという前提のもとに、人と接することは可能はずだ。

阿闍梨さんは回峰行の後、国内はもとより、中国の聖地五台山を巡礼し、バチカンでローマ教皇と謁見するなど世界を股にかけて活躍する。「すべてが仏」という阿闍梨さんのメッセージは、平和で住みよい世界の実現に貢献するにちがいない。

合掌

千日回峰行は十二年間比叡山に籠もり、百日間の回峰行を終えた後、さらに選ばれたものだけに許される行である。途中で続けられなくなつたときは自害することを求められ、首をつるための細と短刀を常時携行する。頭にはヒノキの笠をかぶり、白装束(死に装束)をまとい、草鞋ばきといういでたちで七年間にわたる行を修める。七百日目になると、生き葬式を行なつた上で、足かけ九日間にわたる断食・断水・断眠の堂入りという行に入る。